

【福島市】

会 議 名	平成30年7月6日定例記者会見
日 時	平成30年7月6日（金） 午後10時～10時40分
場 所	庁議室

発言者	内 容
広報課長	<p>開会</p> <p>それではただいまから定例記者会見を始めます。本日は市からの発表事項が5件となっております。</p>
市長	<p>市からの発表事項</p> <p>わくわくふくしまインスタ大賞、決定！～受賞作品発表～</p> <p>みなさん改めておはようございます。</p> <p>私からの発表事項は5件ございます。</p> <p>まず1点目は、わくわくふくしまインスタ大賞が決定したということです。受賞作品はこちらでございまして、飯坂の花ももの里で撮影された、ほんのりするような写真が今回の大賞です。</p> <p>それから、こちらが受賞作品の全体でございまして、それぞれの優秀賞、それからシティ情報ふくしま賞という形で決定をいたしました。それぞれが本市の魅力を、インスタを通じて表したものであるとして、いい作品が皆様方にご提供できると思って喜んでおります。</p> <p>今回は2ページ目にありますように、福島市で初めて実は今回インスタによるフォトコンテストというものの実施をしました。私が市長に就任いたしましたして、1月の補正予算で作ったのが今回の取り組みでして、そしてこの5月31日まで募集をさせていただきました。2の(2)にありますように、去る6月に審査を行って、私と市内の3つの温泉の代表の方、それからやはりインスタに関していえば、若い感覚をぜひ反映させたいということで、シティ情報ふくしまの編集長と、現役の学生の編集部の方に参加をいただいて決定をした次第です。応募総数は3番にありますように2056件ということで、応募いただいた方に感謝申し上げたいと思います。</p> <p>そのうち今回はまず1次審査として、要件を満たしているものと、それから「いいね」というものが100以上ついたものということで審査に残り、そしてそれを先ほどの審査員で審査をした次第です。やはり今回の場合は、「春」というのが一つのテーマだったので、福島の春に沿っていること、それからインスタ映えをしていること、それから福島に行きたいと思わせる写真であることと</p>

ということで、審査基準を設けまして決定をいたしました。
私も実は、自分も一生懸命投稿したのですが、残念ながら予選に勝ち残れず、その前に落第をしてしまいました。それで今回感じるのは、意外とこの若い世代にも、このほのぼのとした中年から熟年にかけてのご夫婦がのんびりと、この花ももの花の中で山々を眺めるといふ写真が出て、こういった写真というのはやはり若い世代にも受けるんだなと感じた一方で、今回はある意味福島の定番じゃないものがたくさん入っています。例えば、夜空の写真、田んぼのアーートの風景ですけれども、このようなものも素敵だなと思いますし、ちょっとノスタルジックなバスも入った写真ですし、生き生きと子どもがクライミングを楽しむというような写真、さらには今福島市がコスプレの東北のメッカになりかけているのですが、そのコスプレの写真があったり、若い世代の感覚というのはやはり、我々が思ってもみない感性があると感じました。その点では、定番の風景写真もかなりいいものもあったのですが、今回はこういった多様な福島の魅力を発信するということで、こういったものを表彰させていただくことにいたしました。ぜひ、こういったものを見て福島にどンドンとワクワクとおいでいただきたいと思います。

あなたの声を福島市の未来に届けよう

～新しい総合計画策定に向けて市民アンケートを実施します～

それから2つ目になります。

「あなたの声を福島市の未来に届けよう」ということで、新しい総合計画の策定に向けて市民アンケートを実施するという事です。現在の計画は、2020年度までということになっていて、2021年度から新たな総合計画を作ることが必要になってくるということになります。そのために今からアンケートを実施して、その計画に反映をさせたいということです。

特に今回は、やはり東日本大震災と原発事故から10年が経過した後の計画になりますので、これまでの復興の取り組みと成果を踏まえながら、県都として何を将来に向けて目指していくのかという点では非常に重要な計画になると思います。そのために今回は、初めて、市の復興の現状について、市民がどう感じているかということを探ったり、あるいは人口減少社会と少子高齢化がさらに進んでいく社会における行政と市民のあるべき関係についても問うような、そういう設問もいたしております。また、こういったことで将来の福島の姿を一緒に考えていただきたいというような内容にいたしております。またこれまでもやっておりますが、市の行政に対する市民のみなさんの満足度とか、あるいは今後優先的に取り組んでほしいことなど、市政のニーズを把握

して新しい計画づくりに役立ててまいります。

1にありますように、調査対象は3,000人ということにいたしております。支所を単位として地区ごとに年齢と居住人口に応じて抽出いたします。その辺は地域、年齢、性別のバランスをとるとい形にしております。実施期間は、7月17日から8月7日です。主な調査項目は今申し上げた通り、(1)といたしまして、満足度と今後の優先度。それから2つ目は結婚や子育てに関する考え方。3点目は市の暮らしや魅力。4点目は復興や放射線に関する意識とこれからの街づくりについてということで問うことにしております。どうしても全体のサンプルのバランスをとる上で、3,000人というのを分析の対象といたしますが、できるだけ市民の声も集めたいと思っております、その辺はネットを通じて選ばれていない方でもアンケートにお答えできるような取り組みも私どもとしてやってまいりたいと考えております。2点目は以上です。

福島市とあいおいニッセイ同和損保が包括連携協定を締結

それから3点目、福島市とあいおいニッセイ同和損保との包括連携協定を締結するというお話です。

本市では、企業と市がそれぞれの特色を生かして、市民サービスの向上や地域の活性化をはかることを目的に、包括的な連携をする取り組みを進めています。今回新たに、あいおいニッセイ同和損保様と締結をすることになりました。

締結の日時は、7月11日水曜日の午前10時30分からということになっておりますが、連携の項目は4番にあります通り、1つには「地域・暮らしの安全安心に関すること」ということで、損害保険会社ならではの安全に関するような講習会を市民向けに実施していただきたいと思っております。あるいは2点目で「防災・災害対策に関すること」ということで、耐震セミナーなどの開催も行ってまいります。3点目は「産業振興・中小企業支援に関すること」ということで、企業向けに女性が活躍するためのポイントセミナーとか、働き方改革セミナーなどを開催いたします。4点目は「子育て支援、子ども・青少年育成に関すること」ということで、本市も独自にやっておりますが、保育所や幼稚園の管理者・職員向けに研修会などを実施してまいります。それから5点目、これはオリンピックが開催される本市としては非常に魅力的なのですが、あいおいニッセイ同和損保さんが抱えておられます社員アスリート、オリンピックやパラリンピアンの方々を本市のイベントに派遣いただいて、市民の皆さんに楽しんでもらいたいと思っております。ちなみにどのような社員アスリートがいらっしゃるかと申し上げますと、オリンピックでは競泳自由形の青木智美選手、バタフライの小林奈央選手、あるいは女子サッカーの

日本代表になっておられます横山愛選手、成宮唯選手などがいらっしゃいます。それからパラリンピアンでは16選手おまして、パラ水泳、デフサッカー、柔道、車いすバスケットの選手の方がいらっしゃって、ぜひこちらに来ていただきたいと思っております。3点目は以上です。

「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に市民の皆さんのさらなる参加をお願いします！

～専用回収ボックスへの改装の対象品目を拡充～

それから4点目になりますが、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクトに市民の皆さんのさらなる参加をお願いします！」ということです。

現在、東京オリンピック・パラリンピックの組織委員会で、このメダルプロジェクトを実施しています。本市でも市役所のロビーに1台このようなボックスを置いて、携帯電話とPHSの回収をしておりましたが、今回、回収の体制を大幅に強化し、現在市独自に市内39カ所に小型家電の回収ボックスを41台設置しているのですが、これを全部メダルプロジェクト専用改装いたしました。市が回収するものをこれまでの2品目から大幅に拡充をして、このメダルプロジェクトに積極的に我々も参加しようというものです。ぜひ、市民の皆様にご協力いただきたいと思います。

なお、この点が重要なのですが、私も回収に協力をするのは非常にためらっていましたが、というのは、データをどうしようかと思っていました。データを自分で処理して困らないようにして持って行かなくてはならないかと思いましたが、よくよく聞いてみると、ここにありますようにデータを厳重な保管セキュリティが施された工場に徹底的に解体してしまいます。データの読み取りができない状況にしてしまいますので、データが残っていたとしても情報の漏洩の心配はございません。それは市の職員が直接解体工場に行って状況を確認してまいりましたので、出て困るというデータをお持ちの方でも安心していただけるということで、ぜひご協力をいただきたいと思います。

これまでの回収実績は1番にある通りですが、本市の状況は1の(2)にあるように、これまで1階の回収ボックスでは昨年度だけの段階でいうと、携帯電話144台など16.8キログラムということでしたが、先日の日米対抗ソフトボールでは、環境省をはじめいろいろと呼び掛けた結果、1日で携帯電話93台、パソコン26台、その他小型家電ということで125.7キログラム集まりました。その点で本当に、こういう呼び掛けでご協力いただいた方に感謝を申し上げます。

今後は、2の設置場所にあるように、回収ボックス42台全てがこ

のメダルプロジェクト用の回収箱になります。それから3にありますように、対象となる小型家電は合計いたしますと11品目という形で拡大をいたします。実施期間は来年の3月31日までです。5番にありましたように、回収した小型家電は南相馬にある会社の高良さんというところに引き渡しまして、こちらが認定事業者になります。厳重な保管セキュリティが施された工場解体作業を行いまして、個人情報を読み取り不可にすることにしていきます。

6にありますように今後はこうして常時回収を進めますが、それ以外にも環境フェスタや様々なイベント、あるいはオリンピック関連のイベントで回収ボックスを設置して回収を呼び掛けたいと思います。そしてまず手始めに職員が協力しようということで、職員に呼び掛けておりまして、今日正午から1時の昼休みの間に1階のエントランスで職員に持って来てもらうということで回収したいと思っています。

福島市オリジナル！ごみ減量

～おいしい食べきり！2020(にいまるにいまる)運動～

最後になります。これは環境の関係ですが、「福島市オリジナル！ごみ減量～おいしい食べきり！2020(にいまるにいまる)運動～」というものを実施するというものです。

まず説明をしたいのですが、説明資料の1番をご覧くださいなのですが、今福島市でごみの1人当たりの量が、直近のデータでいうと全国でワースト3位です。その前までは、連続してワースト1でした。そのうち食べ残しでいうと、宴会が14.2パーセント、結婚披露宴が12.2パーセント、食堂・レストランは3.6パーセントですから、宴会の時の食べ残しが非常に多いです。それで、宴会の時にこの2020運動というのをやろうということです。

どういうことかという、まず、最初の20分は自分の席についておいしく料理を食べましょう。そして、最後の20分も自分の席について残さずに食べましょうということです。ちなみに国は、環境省が3010(さんまるいちまる)運動というものをやっております。これは最初30分間と最後の10分間です。本市はやはり、オリンピックの機運醸成もかねて2020年を使いまして2020運動という形でやってまいりたいと思います。宴会の運営にあたっては、いろいろと切り捨て、切り上げ、やりかたはあると思いますが、ぜひ協力をいただきたいと思います。もう早速我々も、昨日もとある宴会でこれをいたしましたし、この前の市議会の懇親会でもすでに取り組みを始めましたが、こういう取り組みで食品ロスをなくしていきたいと思っています。

私からは以上です。

<p>広報課長</p>	<p>質疑応答</p> <p>それではただいま発表がありました事項について質疑応答に移ります。ご質問がありましたら、挙手指名の後、社名とお名前をおっしゃっていただき、ご発言をお願いいたします。</p> <p>それではどうぞ。</p>
<p>記者</p>	<p>わくわくふくしまインスタ大賞なのですが、大賞と優秀賞の3つ、「いいね」がどれだけついたのか教えていただけますか。</p>
<p>市長</p>	<p>(担当者を指し) わかりますか。では後ほどお答えします。</p> <p>こうやって見ると、もともとフォロワーが多い人はやはり出せばどんどんきます。私のように少ないのは駄目でした。</p>
<p>記者</p>	<p>インスタ大賞の話なのですが、他の自治体ですとこうした応募というか大賞を設けて、作品を求める形というのは定期的にやっていたり、位置情報が確かGoogleマップなどに落とせるので、これを使って観光案内などの活用を考えている自治体があると思います。今後の活用についてはどのようにお考えでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>我々もマップ化して色々な面でご案内していきたいと思います。</p> <p>これは当初からの予定で、そのように考えています。</p> <p>それから、今回春をテーマにやったのですが、今後は四季それぞれでやる、あるいは、今回は食べ物の応募が意外と少なかったもので、その点では、食べ物をテーマにするなどの案が考えられます。</p> <p>四季だけでなく、テーマを設けてやる、というのも一つの手かなと思っています。いろんなやり方を工夫して、本市の観光PRをしていきたいと思っています。</p>
<p>記者</p>	<p>インスタ大賞の受賞作品を一度に見られるページなどはあるでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>それもやってまいります。</p>
<p>記者</p>	<p>2020運動で、実施の背景のところで「原発事故の影響があるものの」とありますが、どういった影響があっごみが多いんでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>一つは、これを機にいろんなものが捨てられるという面がありますね。特に、一旦避難で来られて、戻るときにまた残ったものを捨てられてしまうというのがあります。</p>

【福島市】

	<p>それから実は数字的なマジックで申し上げると、一人当たりの分母が住民基本台帳なんです。本市に住民登録をされている方が母数になっているんですね。ただ実際のごみは、住民登録が無くても、避難されている方のごみも、我々のごみの中に入っているんです。その点、国勢調査人口で見ると、本市は、少なくなるとまでは言いませんが、今のワースト1とかワースト3よりは若干下がってきます。そういう面はあります。</p>
<p>記者</p>	<p>2020運動について、「飲食店に、お開きの20分前に幹事に声掛けを依頼する」とのことですが、この飲食店は、協力店みたいなものを募って、そこに協力を依頼するということですか。</p>
<p>市長</p>	<p>これは今のところ、我々からお願いに上がろうということですが、その点、協力店というのは一つの手かな、と今質問を受けて思いました。</p> <p>普通のペースで出されてしまうと、最初の20分は実はあまり食べられないんですね。ある程度最初に、早めに持ってきてもらえないと食べられない。ある程度早めてもらうというのは、飲食店にご協力をいただかないと、最後に冷めたものだけ食べるという格好になりますので、そういった面の協力も必要かな、と思います。</p>
<p>記者</p>	<p>駅前の再開発に関して、具体的なコンセプトというか、形が、再開発される部分だけではあるものの、民間の準備組合で示されていますが、大規模に変わる形になるかと思います。それをどうお感じになっているか教えていただけますか。</p>
<p>市長</p>	<p>本当に、福島のこれまでのまちづくりを大きく変える、これまでに無い大改造計画になると思っています。一方で我々も、駅を中心とした中心部をどうするかというので、委員会で検討していただいているのですが、そういった動きを十分取り込みながら、市としての中心部のまちづくりを考えてまいりますし、特に我々が考えているコンベンションなどの公共施設に関しても、再開発とどのように関連付けるかということをも十分考えながら取り組んでいきたいと思っています。</p>
<p>記者</p>	<p>コンベンション施設という話がありましたが、実際に今回示されたああいった形の施設にコンベンション機能を入れたいという思いはありますか。</p>
<p>市長</p>	<p>それも一つの選択肢だと思っています。したい云々の問題ではな</p>

<p>市長</p>	<p>く、これから、我々もどこに作るかなどの検討を始めますので、その場合には、中に入れて、民間の様々な施設と連携を取りながら、まちの活性化について非常に有機的な関係を持たせるというのも、有力な方法だとは思っています。</p> <p>ちなみに、報告事項でもないですが、前回私も十分お答えできていなかった部分で、学校に関連するブロック塀の話ですが、本市も、県内で85校のうち40校ということですので、このあたりは、とにかく危険なものをきっちりと調査をして、その上で、早急に改修作業などに取り掛かっていきたいと思っています。今、緊急に対応が必要といったものは、早急に撤去してフェンスを設置するとか、現場の状況にもよりますが、設計後に撤去・改修工事に着手する、というものが出来まいりますし、9月の補正などでも、対応して、公的な部分の改修等を進めていきたいと思っています。</p> <p>一方で、いわゆる通学路の安全確保については、各小中学校において、地域の関係団体などと連携して、ブロック塀などの建築物の観点も含めて、通学路の安全点検を行うということで進めております。その状況に応じた対策を取ることですが、民間の塀に関しても、これまでも市で、危険な塀は撤去して生垣にするというものに対する補助制度を持っているので、これはすぐにも活用できるので、こういったものを活用して進めていきたいと考えています。</p> <p>発表事項ではないことを申し上げましたが、前回の補足としてお話しさせていただきました。</p>
<p>広報課長</p>	<p>閉会</p> <p>それでは、以上をもちまして定例記者会見を終了します。</p>